

第2回高岡市復興会議 議事要旨

開催日時：令和8年3月30日(月) 午前10時～午前11時40分

場 所：市役所8階802会議室

出席者：復興会議委員 出町会長、米谷副会長、上見委員、大西委員、坂委員、塩谷委員、高田委員、高畑委員、立野委員、蜂谷委員、八坂委員、吉川委員、澤委員（川上委員代理）（13名全員出席）

事務局 都市創造部震災復旧推進課ほか

1 会議での報告事項等（別添資料のとおり）

- ・計画策定スケジュール（資料1）
- ・第1回復興会議以降の取組み（資料2～資料4）
- ・新たな復興計画の枠組み等（資料5～資料8）
- ・伏木地区の課題、将来的なまちづくりの方向性について（資料9～資料10）
- ・復興まちづくり構想、復興ベース（仮）の試行（資料11～資料12）

※以上、事務局より資料に沿って説明

2 委員意見の発言要旨（主なもの）

- ・今後の人口減少を踏まえて、50年後、100年後を念頭においてまちづくりの方向性を考えるべき。
- ・震災前の元の姿に戻すのは現実的ではない。人口減少や災害リスク、地域の特性等を踏まえたまちのゾーニングが重要。
- ・空き地が広がる中で、まちの魅力となるこみちや開渠化した水路を整備する等して、まちの魅力を高めては。ただし、地域の住民が本当にそれを望んでいるのか、伏木らしさと言えるのかは慎重に考えるべき。
- ・行政ばかりに頼るのではなく、地域住民が主体となったまちづくり組織を立ち上げて、伏木地区が、今後の人口減少下での持続可能なまちづくりの新たなモデルとなれるよう、取り組んでいくべき。

※新たな復興計画の枠組み等（資料5～資料8）については、了承を得た。

3 次回（第3回復興会議）に向けて

- ・委員との意見交換を継続しながら、めざすまちの姿のイメージと、具体的事業について検討を進める。めざすまちのイメージを描くにあたり、人口減少や災害リスク等、エリアの特性を踏まえて検討を行う。